

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0831
施設名	ハッピードリーム鶴間
施設所在地	町田市南町田4-22-7
法人名	社会福祉法人 龍美

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然への興味の広がり ～園庭の植物や生物への興味から学びを深める～  
第一期 砂・土などの自然素材と可塑性のある素材を用いたこどもの主体性を育む探求型あそび

<テーマの設定理由>

当園は住宅街の中にある保育所で、自然物と触れ合い学びとる環境としては足りない部分がある。このため、今回のすくわくプログラムの取り組みの中で園庭に自然物やその観察が出来る環境を用意し、子どもたちが草木や虫などの自然物や土・木・砂・水・雨樋など可塑性のある素材を置く場所を園庭内に作り、それらと触れ合う中での学びを深める。また、園庭での自然環境構築の専門講師によるコーチング研修等を実施し、より効果的で高度な学びの環境を子どもたちと共に創り上げていくにはどうすべきか、何をを用意することが望ましいかの学びを得て保育実践に活かす。加えて、異年齢クラスがある園の特徴から3歳から5歳（時には乳児との関わりも加わる可能性もある）の子どもたちの中での学び合いを大切にできる取り組みとしたい。

## 2. 活動スケジュール

2024年9月～10月 自然素材と可塑性のある素材を使った遊び（観察と研修） 2024  
年11月～12月 環境計画研修とそれに基づいた環境づくりの実施 2025年 1  
月～3月 環境改善後の観察と記録及び共有、4月以降にむけて研修の実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

自然素材 : 築山(山砂) / 砂(細目砂) / 水 等  
可塑性のある素材 : 木板(廃材) 廃タイヤ コンテナ 等  
環境設定 : プレイヤード(素材置場件遊び場)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

プレイヤード（木製小屋）の内部に素材の置き場を設定（棚を作り、コンテナに入れた木片・木板などを置き、廃タイヤなども積んで置いておく）素材や小屋の使い方に特に制限はせず、遊び終わりの素材の管理や最低限のルールだけを保育者と子どもたちとの話し合いで共有し、子どもたちが主体的に自由な発想で素材や環境を使い、どんな遊びを創造しそれを深めていくかを観察した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

プレイヤードに設置された棚にすき間があることを発見し、廃材の木板を手紙にすき間をポストに見立てて「郵便やさんごっこ」をしてみたり、出入り口の上部に掴まれることを発見したところから、正月にTVで見たSASUKEごっこをするために、プレイヤードにあるものを使って小屋と園庭を繋げ、SASUKEのコースを自分たちで試行錯誤しながら作って遊ぶ姿が見られた。また、2歳児も環境に興味を持ち、幼児の遊びを真似て素材を使って楽しんでいた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た保育士の気づき>

砂・土などの自然素材に、可塑性のある素材（具象物ではない木片などの素材）が組み合わせられることで、子どもたちは素材そのものへの興味関心からそれをさらに拡張し、大人が介在しなくても想像を膨らませて自ら様々な遊びを発想していくことが実感できた。また、子どもたち自身が自ら発想した遊びは周囲の子どもを巻き込みながら発展し、その場面場面で様々な対話が生まれるのも「大人が規定した決まり」がない子どもたちが主体的な遊びを行っているからこそではないかと感じた。この環境に更に新たな可塑性素材や植物などの自然素材を加え、さらに豊かな遊びと学びの環境を作っていきたい。